

[第634回 大阪放送番組審議会議事録]

1. 開催日時 新型コロナウイルスの感染リスクを避けるため、会議室での審議を止め、委員全員に書面参加で対応してもらった。書面提出の期日を令和3年2月25日(木)とした。

2. 開催場所 上記参照

3. 委員の出欠 委員の総数 6名

※ 新型コロナウイルスの感染リスクを避けるため書面参加で対応

書面参加の総数 6名

書面参加の委員氏名

成瀬 國晴	河内 厚郎
たつみ 都志	鎌田 雅子
萩原 章男	内田 透

4. 議題

1) 番組審議(書面参加) 『浪花ともあれ浪曲ざんまい』

2) その他

5. 議 事 の 概 要

議題 1) 『浪花ともあれ浪曲ざんまい』

について、番組の企画意図・内容の資料をご覧のうえ、番組を聴取してもらい、書面でご意見を提出してもらった。

6. 審 議 内 容

社 側 <番組資料を送付>

落語・講談とともに三大話芸の一つといわれる浪曲。

昭和の最盛期には3000人の浪曲師がおり、売れっ子は長者番付に載っていたそうです。

また大阪は近代浪曲発祥の地とも言われ、ラジオ大阪がある港区にも多くの浪曲寄席が立っていました。漫才など他の芸能や娯楽に押されかつての勢いはありませんが、浪曲はこの地にしっかりと息づいています。古典から創作まで、熱い唸りと三味線とのアンサンブルは見る者聴く者の心を揺さぶり、笑いや涙を誘います。浪曲の会には耳の肥えた古参のファンに交じって仕事帰りの若手サラリーマンの姿を見ることができます。

「浪花ともあれ浪曲ざんまい」は、日本のそして大阪の伝統芸能の一つである浪曲に光を当て、ラジオを通してその魅力をPRしていこうという番組です。合言葉は「令和の時代に浪曲を」。上方浪曲界の第一人者である京山幸枝若、タレントから転身した女流浪曲師の春野恵子、幸枝若の弟子である若手の京山幸太、そして曲師の一風亭初月の4人が出演。本格的な浪曲ファンだけでなく初心者やなじみのないリスナーが浪曲に興味を持ってもらえるよう、フリートークや創作浪曲も交え、賑やかな構成でお届けします。

<各委員の書面でのご意見>

委 員 私にとって、浪曲と聞いてまず思い浮かぶのは子供のころに見ていた「宮川左近ショー」で、本格的な浪曲を生で拝見したことはなく、どちらかと言えば縁遠い存在だった。

番組を聴かせていただき、浪曲に対して漠然と抱いていたイメージが変わった。決してとっつきにくいものではなく、身近な芸能であること。出演者の皆さまの軽快なトーク、なじみやすい構成を通じ、気が付けば番組に引き込まれていた。

考えてみれば、もとは大衆に愛された浪花節の世界。肩ひじ張らず楽しめばいいのだと気づかされた。

今回の放送回、浪曲師への差し入れをテーマとしたオープニングトークは、ビギナーである私にとって大変興味深い「つかみ」だった。浪曲の楽屋は差し入れだらけ、ファンだけでなく出演者同士もあれこれ持ち寄る。コロケ、551、みたらし団子、パンなど、お一人お一人に定番があるとのこと。顔は知らなくても、それぞれの個性が想像できるように楽しくなる。番組を通して、春野恵子さんの明るさがうまく場を和ませていた。

わずかな時間ではあったが、浪曲実演のコーナーはさすがだった。

京山幸太さんの「〇〇やってみた」。「鬼滅の刃」は私も見ておらず、まさに今さら聞けない題材なのだが、作品の設定ともマッチしているのか、浪曲で聴く「番宣」は効果抜群で引き込まれた。

幸枝若師匠の「米屋剣法」。最初にあらすじを聞き、いざ本編へという流れは私にも入りやすい。まさに聞きほれる声、巻き舌軽やかに力強くもつややかな節回し。あっという間に物語の世界へ入り込んだ。番組の中で「浪曲はパワーを使うが、80代の師匠でも声が出る」という話があった。ネットで調べると、幸枝若師匠はまだ67歳とのことだが、聞き手が元気を与えていただけのひとときだった。

コロナ禍でおうち時間が長くなる中、浪曲は、年層を問わず再興の可能性がある芸能だと心から感じる。唯一物足りなさを感じたのは、わずか25分という放送時間の短さ。1時間番組で、個性あふれる出演者の方々のトーク、そして浪曲をじっくり味わいたい。「米屋剣法」の敵討ちの一節も聴きたかった。ご検討いただきたい。

委員

第一人者の浪曲、身近な話題を浪曲の唸りで聞く楽しさや新奇性、出演者のパーソナリティのいずれかに興味を持ってもらえることで、浪曲の新しいファンを生み出すという試みだと思う。浪曲の言葉の強さやリズム感は、そもそもラジオ向きである。浪曲が好きで精進を続けている浪曲師を盛り立て、さらに浪曲文化を将来に引き継ぐ支援となるいい番組だと思う。ただ、浪曲ニュースの成分献血の話は、なぜこの話題と誤ってしまい、鬼滅の刃は人物名ばかりで内容に聞き応えがなかった。中身の質を高める余地がまだあると感じる。

例えば、出演者の所属している浪曲親友協会には、他にも個性の強いメンバーがおられるようである。時間枠が厳しいとは思いますが、個性的な仲間をゲストとして呼び、話題や芸の広がりや深みを出していくことで、浪曲や浪曲師への関心をさらに広げる機会になるのではないかと思います。

委員 ここ数年で落語を生で聴く機会があり、それをきっかけに落語のみならず浪曲の会にも何度か行ったことがある。何も知らない私も楽しめたので、なんとかもっと世の中に広まればいいなと思っていた。

浪曲師3人と曲師だけ、いろいろ意欲的なコーナーもあり、出演者やスタッフがなんとか浪曲の魅力を広めようとする意欲がうかがえる番組だと思う。気さくに話す幸枝若師匠も、本当に楽しんでいる様子が分かる。

気になる点は、オープニングすぐリスナーからのおたよりの読み、その後はコーナーが続く。私としては、最近こんなことやあんなことがあった、というような御三方自身のパーソナルな部分の話を聴きたいと思った。その方がより、リスナーとの距離が縮まるのではないだろうか。

浪曲でやってみたのコーナーはいろいろな可能性がありとてもおもしろいと思う。ぜひともリスナーを「あっ」と驚かせるような題材にチャレンジしてもらいたい。

コーナーも固定化せず、出演者やスタッフで浪曲の可能性を爆発させるようなものを今度どんどん生み出されることを期待している。

委員 久しぶりに浪曲を聞いた。

東京では、講談師・神田伯山が人気を博している昨今、「令和の時代に浪曲を」ということも有りかも、と思った。

東京で講談、浪速・大阪で浪曲という対照が面白い、と。

今、人気の「鬼滅の刃」の浪曲化で、このアニメのそもそもの原点が分かり、嬉しかった人もいるのではないか（私個人的には、物語の発端は面白いが、あとのシリーズは、ドラゴンボールやワンピースと同じだと思う）浪曲にしやすい現代ドラマと出来にくいものがあるだろう。

一方古典的(?)浪曲「米屋剣法」の一節の披露は、そこに至るまでの経緯を、ダイジェストして話していたが、全部聞いてみたいな、という気になる。どうすれば聞けるのかを案内して欲しいな、と思った（例えばネットのどこそことか）

その他、浪曲ニュースもほっこりして面白いし、何より4人（3人に聞こえる）のさりげないやり取りがいい。

既に取り上げたのかもしれないが、「浪曲の発声の基礎」とか「修行の実情」「浪曲に向けた声質」なんかも聞きたい。

というのも私は、コロナ禍をきっかけに2020年3月からyoutubeを始め、38本くらい上げた。教壇に立って半世紀になるが、密室でカメラに向かって語るには、「話芸」が必要だと実感する。教壇とは別物である。

youtube 隆盛の令和はむしろ、この「一方的な話芸」にスポットが当てられるのではないかと。平成が「コミュニケーション」の時代なら、令和は「一方的話芸」でいかに人を引き付けるか、ではないか。

委員

〈令和の時代に浪曲を〉の合言葉で「三人の浪曲師と一人の曲師が、やいのやいのと語り合う、浪曲番組です」・・・とはじまる PR 番組。浪曲未体験だったがジワジワと引き込まれていくというリスナーからの「芸能人の皆様の楽屋にあるものは？」という質問を春野恵子が紹介すると、「まずは差し入れ」と答えたのは、たぶん京山幸枝若。浪曲師の楽屋は差し入れが多いので有名と春野が解説する。文楽劇場の「上方特選会」では落語や漫才など、各演芸部門が揃うが、差し入れだらけなのが浪曲師たちの楽屋だという。師匠たちの食の好みも披露され、あとは湯呑やポットなどと文楽劇場や一心寺の楽屋の様子が語られる。最後に、「では、シンプルということで（よろしいでしょうか）」と春野が締めくくるのは意味がよく分からない。

ニュースのコーナーで、キャスター役の京山幸太が取り上げたのは春野の献血の話題。成分献血について春野自身があれこれ解説するが、「必要なものをもって、残ったものが透明で、赤い部分を身体に戻す」という説明は何か変ではないかと気になった。

幸太が担当した、～浪曲であれこれやってみた～では、流行りの「鬼滅の刃」をとりあげる。幸枝若が「見たことない」と言っているのを聞き、（私もそうなので）安堵したが、コロナという言葉を盛り込んで、幸太はあらずじをそつなく披露した。

浪曲ライブは、幸枝若の「米屋剣法」から。初めて聞く人には分かりづらいかもしれず、要するに弟子を思う師匠の気持ち、と丁寧に話す。はやり病と偽って師匠の面会を拒む米屋精三郎を師匠の吉岡がまさに見ようというところで終わる。こんな肩透かしが浪曲には多く、初代・京山幸枝若の口演でも、聞き惚れていると盛り上がった所で「ちょうど時間となりました～」の決まり文句で終演する。物足りなさを客に感じさせて、何か、後を引く思いを抱かせる、そんな駆け引きは浪曲師の得意技かもしれない。

委員

私たち世代は戦後の広沢虎造の清水次郎長伝から入り多くの浪曲を聞いて育った世代だ。

今も浪曲ファンだから、この浪曲を前面に出した「浪曲バラエティ」とも

いう番組だから期待を持って聴いた。

「オープニング」の4人のしゃべりは差し入れ、食べ物の話だがまとまりがなく聴きづらかった。

ここはリスナーに耳を傾けさせる最初だから自分たち仲間うちだけのうだ話ではない方が良かったと思う。

「浪曲ニュース」 毎回ニュースが変わるのだろうが、春野恵子の体験した成分献血が目新しくこれはリスナーのために役立つ話だからちゃんと一人しゃべりでレポートして欲しかった。

「浪曲であれこれやってみた」は、はやりの「鬼滅の刃」の浪曲版で着想が面白い、浪曲を若者にとりいれられるきっかけになればいい。そのために聴かせる腕もいると思う。

「浪曲ライブ」は言うことなし。このコーナーは大切です。

20時からのいい時間だから長く続けて浪曲の間口を広げてほしい。

社 側 書面での貴重なご意見、ありがとうございました。

以上

7. 審議会の答申又は改善意見に対してとった措置および年月日

な し

8. 審議会の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表内容・方法及び年月日

- ・「番組審議会だより」 (第634回大阪放送番組審議会議事録の要約)
「愛してラジオ大阪」 内で放送
放送日 令和3年 3月 24日(水) 23時20分～23時30分
- ・「番組審議会だより」 (第634回大阪放送番組審議会議事録)
ラジオ大阪ホームページ (<http://www.obc1314.co.jp>) に掲載
- ・ 番組審議会の議事録の原本は事務局立ち会いのもと閲覧に応じる。